

G-2 小学校5年食物学習(サラダ調理)について児童の意識調査(その1)
大妻女子大 ○大山サカエ 広島大 石塚すみ江 岩手大 清水房

目的 小学校食物学習について、前回は切り方の技能を報告したが、今回は生野菜サラダ調理の実際の学習に対して、児童がどのような意識をもっているかを調査し、学習指導に役立てようとするものである。

方法 調査対象は広島82人、東京127人、岩手119人、調査時期は昭和45年5月～7月で、調理実習直後、調査内容はサラダ調理の作業に対する児童の意識の難易、興味、できばえの自己評価、サラダ調理学習の興味と家庭の手伝い程度との相関関係、学校実習のサラダと家庭で作るサラダの味との比較

結果

1. 作業に対する難易は、切る、酢、油をはかるのが男女とも全作業中では、もっともむずかしいが、難易度はふつうである。作業全体としてはふつう程度の作業である。男女間の順位相関関係は有意水準1%で相関が認められる。
2. 興味のある作業は男女とも、切る、盛りつけるがもっとも高く、作業全体としては興味のあるものである。男女の順位相関関係は有意水準1%で相関が認められる。
3. 作業に対する自己評価は、切る、酢、油をはかる、酢・油をませるのが、全作業中では、よくできなかった方であるが、程度は「ふつうだった」と答えている。作業全体としてはふつうの「できばえ」といっている。男女間の順位相関関係は有意水準1%で相関がある。